



アフリカ

No.114

NOW



AJF25周年企画「これからアフリカの人々とできること～アフリカ日本協議会の歴史を振り返りながら」 2020年2月8日 撮影：茂住衛

CONTENTS



目次

特集：アフリカにおける新型コロナへの取り組み Special Topic: Facing COVID-19 in Africa	
新型コロナ：異次元の危機のただなかでアフリカ、世界とどうつながるか How can we create solidarity with Africa and the world in the unprecedented COVID-19 crisis ?	稲場雅紀 3-7
ギニアの COVID-19 専用病棟で入院を体験する Hospitalized in the ward of COVID-19 in Guinea	井上保子 8-10
カメルーンにおける COVID-19 の現状 The present situation about COVID-19 in Cameroon	土手香奈江 11-13
COVID-19 によるナイジェリア農業被害への国際農業開発基金の支援 IFAD's support for the rural poor in Nigeria against COVID-19	坂田有弥 14-15
ケニアでの児童保護活動と新型コロナ感染予防の取り組み Community based child protection and intervention for prevention of COVID-19 in Kenya	橋場美奈 16-17
新型コロナ：南アフリカからの報告と日本の報道の問題を考える Reports from residents in South Africa on COVID-19 - What's the fact there ?	吉村峰子、高達潔、木村香子、青木美由紀 18-19
食料を通して見えてくる世界 ウェブマガジン『今知る世界の食料危機』の作成から World seen through observing food situation. AJF's online magazine from FAO's "Crop Prospects and Food Situation"	加藤珠比 20-21
FAO の資料を読む学習会について	斉藤龍一郎 21
AJF 新共同代表と新事務局長から皆さんへ Messages from AJF's new co-board chairs and executive director	玉井隆、津山直子、廣内かおり 22-23
わたしたちの声、わたしたちの想い ブラック/ブラックミックスの若者からのメッセージ AKC リレーエッセイ第7回 Our Voices, Our Stories - Message from Black/Black mixed-race youth	エバデ・ダン愛琳、馬場口佳乃、三浦アーク 24-27
AJF 事務局から読者の皆さんへ～ひとつの結び目として／活動日誌	裏表紙

に基づく現況報告が活用されていることがわかります。IPC では、最も深刻な食料不安の状況はフェーズ5「飢饉」の状態とされています。

東アフリカ北部における 2019年秋の大雨の影響

2019年10月頃の大雨季の大洪水により、東アフリカ北部地域では、生活する場が失われただけでなく、食料生産が大きなダメージを受け、その収穫への影響が今年の食料アクセスへの欠如につながっていることが報告されています。これらの大洪水や他の大雨季の影響および社会不安や紛争による避難民、難民の流入などの要因によって、昨年から今年にかけてアフリカの多くの国で、食料へのアクセスの状況が厳しくなっています。"Crop Prospects and Food Situation" (MARCH 2020) では、約601万人（全人口の51%）が

厳しい食料危機に直面している南スーダンで、大洪水により最も被害を受けたジョングレイ州の2万人がIPC フェーズ5「飢饉」レベルに直面していると推定されており、エチオピアでは2020年初めに、約850万人が厳しい食料不安に直面していると報告されています（「今知る世界の食料危機」No.9 [2020年3月号] 参照）。この号では、東アフリカ諸国でのサバクトビバッタによる食料生産への影響も報告されていますが、新型コロナウイルスの感染拡大により、今年後半のアフリカでの食料安全保障状況はさらに深刻になることが予想され、注視していくことが必要です。

学習会には、アフリカで活動した経験を持つメンバーもいて、アフリカの食料や農業に関心を持っている仲間が集まっています。メンバーが増えるほど、いろいろな食や農業についての知識、関心を共有できると思います。皆さんの学習会への参加をお待ちしています！

FAO の資料を読む学習会について

2016年度まで明治学院大学国際平和研究所研究所 (PRIME)、ハンガー・フリー・ワールド (HFV)、日本国際ボランティアセンター (JVC)、オックスファム・ジャパン (2018年9月解散) と共催して開催していたセミナー「食べものの危機を考える」(現在、休止中) で提起し、2017年4月から「FAOの資料を読む学習会」を開始しました。この学習会の目的は、FAOのGlobal Information and Early Warning System (GIEWS: <http://www.fao.org/giews/en/>) 発信の定期レポート "Crop Prospects and Food Situation" を読み、その内容を日本語で紹介することです。限られた人数ですが、熱心な参加者が日本語訳文を持ち寄り、読み合わせを行い、確定した日本語訳をAJFのウェブサイト「アフリカの食料と農業」ページに掲載している『今知る世界の食料危機』で公開しています。最新号は2020年3月号です (<https://ajf.gr.jp/foodcrisis-no-9-mar2020/>)。

GIEWS について

FAOは、世界の農業、漁業、林業、食料問題に関するさまざまな情報・データを集積し、それらの分析をもとにした多種多様なレポートを発行することを主要な業務としています。FAOのGIEWSは、食料危機の予測、現状報告、危機の背景にある食料の需

給に関わる状況報告を行っています。

具体的には、季刊レポート "Crop Prospects and Food Situation"、年2回刊の "Food Outlook"、月刊 "FPMA Bulletin" (途上国市場の食料価格情報) といった刊行物 (すべてウェブサイトからダウンロードできます) の作成・配布、ウェブサイトを通じた情報提供、解析ツールの提供などを行っています。

新型コロナウイルスと食料・農業問題

FAOは、新型コロナの感染拡大が食料・農業に及ぼす影響に対して取り組みを進めており、そこでの経験や寄せられた質問に応じる形で、現状と課題を 'Answers to frequently asked questions' にまとめています (<http://www.fao.org/2019-ncov/q-and-a/en/>)。

新型コロナの感染拡大の影響を総合的にとらえるため、学習会ではこのFAOの文書の日本語訳作成にも取り組み始めました。現在、'COVID-19 pandemic - impact on food and agriculture' にまとめられた質疑を分担して日本語化を進めています。現在この学習会は、オンラインで月1回ペースで開催しています。関心ある方や参加を希望する方は、斉藤まで連絡してください (saito@ajf.gr.jp)。

【斉藤龍一郎：AJF 理事】